

永遠のいのち

みなさんのまわりで、今までになくなった人がいますか。ところで、死んだ人はどこへ行っていしまうのでしょうか。死んだ後どうなるか、考えたことを、つぎの空白に書いてください。

人は永遠のいのちを受ける

キリスト教において死者の記念日には、死者のために神さまに祈ります。死者が神さまのもとに安らかにいることを感謝して祈るのです。あるいは、今は神さまのもとにある死者に、祈りをささげ、残された者がこれからの人生において、神さまから力をえられるように取り次ぎを願うことでもあります。

人の死を考える時、常に永遠のいのちのことを考える必要があります。人は必ず死ぬものですが、死によつてすべてが終るわけではありません。死後どのような

になるかということを考えるよりも、いかに神さま
にいかされるかを考えることのほうが大切です。終
りの日の復活を信じ、今の時を大切に生きることがイ
エスさまは私たちに求めています。

イエスさまは、大勢の群衆にパンを与えたあと、
自分はいのちのパンであると言っています。イエスさ
まに信頼して、イエスさまの後に従えば、永遠のい
のちを受けることができます。

イエスさまは十字架にかけられて殺されましたが、
今も私たちのうちに生きておられます。

人は洗礼を受けることで、神の子となり新しく生
れかわります。つまり、すでに永遠のいのちをいただ
いているのです。永遠のいのちは、死によって止切れ
るものではありません。ですから、死を迎える時を恐
れる必要がないのです。むしろ、神さまのもとにめさ
れることを喜ぶのです。

